

発行所
カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町 3-6
 ☎ 0959 (72) 3957
 ●ホームページ●
<http://www15.ocn.ne.jp/~mikokoro/>

祝 福江小教区設立百周年

記念ミサ、司祭館落成祝別式挙行！



四月二十九日（火）午前十時福江教会にて小教区設立百周年記念ミサ、司祭館落成祝別式が高見大司教様の司式により執り行われた。前日の悪天候で船便の欠航が相次ぎ、当日への影響が心配されたが、何とか雨も止み教会境内は教区内外の信者など多くの人で埋め尽くされた。

はじめに、司祭館落成祝別式が行われ、高見大司教様、下口神父様、野口五島市長、工事関係の方々、評議会議長によるテープカットの後、大司教様により司祭館の各所に聖水が振りかけられ祝別が行われた。

次に、「信仰のあゆみ」の碑の除幕式が行われた。大司教様、下口神父様、信徒代表等による除幕のあと、碑文の朗読と大司教様によるお祈り

が捧げられた。続いて、聖堂内で記念ミサが行われた。ミサには現大分教区の浜口司教様をはじめとする福江教会で司牧された神父様方、下五島の各小教区の神父様、福江教会出身の神父様方も一緒に盛大なミサと

なった。高見大司教様よりお祝いの言葉と共に「この百年信仰を守り伝えてきた過去からしっかりと学び、さらに先に進むための策を皆で練って頂きたい。」とお言葉を頂いた。ミサ後の感謝式では下口神父様より挨拶があり、ミサを司式して下さった高見大司教様への感謝と共に福江小教区のあゆみについて紹介され「百周年を迎えたこの日、信仰を守り伝えるため自分の生き方を振りかえり見直す機会としたい。成熟した信者となるように努力して欲しい。」と、これからの福江教会信徒への期待を述べられた。

信徒を代表して、評議会議長より感謝の言葉があり、「記念ミサは荘厳で喜びに満ち溢れたものであった。カトリック信者であることを誇りに思い、両親と先祖への感謝の気持ちで胸が熱くなった。この感動を忘れることなく、子や孫たちに伝え、喜びの恵みが必ずあることを信じ伝えていきたい」と述べた。

最後に皆で福江教会の歌を歌い、喜びと神様への感謝の中記念ミサは滞りなく終了した。

「信仰のあゆみ」碑

教会の正面玄関前に建てられた漆黒の「信仰のあゆみ」碑。

福江小教区設立百周年事業の一つとして信徒有志の協力によって作られたこの石碑は、はじめて福江教会を訪れる観光客や巡礼者のために福江教会のあゆみを石碑に刻んだ案内板として設置された。

碑文には、五島のキリスト教史とともに福江教会設立の経緯から現在までの歴史について記載されている。



祝賀会

記念ミサの後、午後一時よりカンパーナホテルにて百周年記念及び司祭館落成記念祝賀会が行われた。

評議会議長による開会の辞の後、野口五島市長、濱口司教様による祝辞があり、前五島市長中尾郁子氏の乾杯の発声により会食となった。会食中は司祭館の工事経過報告、建設関係者への感謝状贈呈、特別来賓者の紹介、歴代主任・助任司祭紹介、福江小教区出身司祭、シスター紹介が行われた。

その後、アトラクションとして小学生とシスター方による福江大火を題材にした大紙芝居、美しい歌声の合唱や小教区百年のあゆみスライド上映が行われ、会場は大いに盛り上がった。

最後に下五島地区評議会議長葛島氏により万歳三唱が行われ盛況のまま祝賀会は終了した。

百周年喜びのコメント

○福江小教区協働司祭 葛島輝義師
『百周年の形見』

心の中で一番強く感動できるものに向かう時、人は一番美しく輝く。信じることは尊い。ひたすら祈りの姿は美しい。雲の切れ間から厳かに登場した二〇一四年四月二十九日の陽光の下、信仰者の喜びは天にも届くかのようでした。

一連の式典は、人の善意と善意が出会って善意の輪が広がったという趣。受け入れる方々のやわらかさが生み出した賜物。誰もが心に温めてきた大いなる記念日は一生の形見。全てを用意して下さった神様に最大の感謝を捧げるものです。

○経済問題評議員

中島一男

『家庭は信仰』

先祖達が責め苦にあって隠れて、イエスの信仰を守ってきたことが今の私たちの教会設立百周年記念となりました。この節目を迎えたことは大事な私の思い出です。教会は神様の家です。

神様はわたしの家に来るのを待っています。これからは家庭で家族そろって祈りや信仰について会話をしながら伝えてほしい。これから先の福江教会の礎として百周年記念を祝いお捧げしたいと思います。

○経済問題評議員 馬津川 巖

四月二十九日、私達福江教会は無事百周年を迎えることができました。私は江上教会の出身なので、福江教会のことは現在の事しか知らないのですが、先人達の御苦労、沢山の人の御協力のおかげだと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいです。福江大火の時も教会だけ焼け残ったのは、神様が救って下さったと、誰もが思った事でしょう。私達は神様によって生かされている事を深く思い、先祖から受け継いだ大事な信仰の火を消さないように、繋げていかなければと思っています。

○長尾舞夏さん(6年生)

紙しばいをしていたとき、少しきんちようしたけど、終わったときにみんながたくさん拍手をしてくれてうれしかったです。

○森憩さん(5年生)

私は、教会に入っていますが、同じ年の人より来た日が少ないです。

けれど、百周年に参加させてもらいました。ミサなどはいつもしていますが、カンパーナホテルで歌うのは初めてでワクワクしました。私が百年後、生きているか分からないけど、とてもたのしかったです。

○はまべあやねさん(4年生)

(百周年ミサで侍者をして) すこしきんちようしたけど、がんばってしました。でも、もうすこし上手にしたいです。

○小田寛人さん(6年生)

シスターから、侍者の中で一番年上の「侍者長」と言われたので、緊張しましたが、大司教様のお手伝いをしっかりと出来ました。また、6年生で侍者は僕一人なので、(これから)責任を持って侍者を務めたいと思います。また、一生懸命練習した、紙芝居のじいの役も、うまくできたのでよかったです。

○小教区設立百周年おめでとうございます

初代神父さまから今日まで、神父



さまと私達は信仰の絆で結ばれて、ともに祈り支えて頂きながら歩いてきました。今回百周年を迎え代々教会に奉仕していただいた神父さま方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



昔私は教会で役を持った事があります。何も大した事をしたわけではありませんが、当時は自分の仕事をセーブしていつ呼ばれてもいいうようにしていました。何でも無我夢中で一生懸命でした。それでも不思議にイヤとは思わず、今となってはいい思い出になっています。

これからは教会に掲げてある「信仰を受け継いで伝えて行こう」の言葉を胸に秘めて自分自身を変えて行こうと思います。福江教会のますますのご発展をお祈りしています。

(七〇代女性)

○小教区設立百周年おめでとうございます。

田舎から出てきて福江教会にお世話になり四〇年になります。当時は婦人会の会長さんと知り合いました。

事もあり、新しい会員さんの呼びかけやお誘いの活動を一緒に行いましたが、福江教会は多方面から転入してくる人が多くて、名前もわからず大変苦労したのを覚えています。

この教会がこれからも代々伝えられていくように若い人たちにお願いたいです。そして、教会から離れた人たちには神様がいることを信頼して近づいてほしいと願っています。

(七〇代女性)

○小教区設立百周年記念おめでとうございます。

私が結婚を機に洗礼のお恵みに与ったのは二五年前それから子供が産まれましたが、超未熟児で体が弱かった娘に洗礼を授けて頂いた時には、この上ない喜びと感謝を感じました。また、愛する母との永遠の別れも福江教会でした。このように人生の節目には、自分は必ず教会にいて、いつも神様に願い感謝し、祈っていました。私達の喜びや悲しみを見守ってきた福江教会を守り抜いた先人達に感謝するとともに、今後私達がこの役割を担っていかなければならぬと百周年を迎え強く感じました。小さな事でもかまいません。自分に来ることが必ずあるはずで。ともに歩み、福江教会を守っていきましよう。

(四〇代女性)

* 福江小教区出身の神父さまにも祝福の「コメント」を頂きました。

○八幡町教会 鍋内 正志師

『種蒔きと実り』
小教区設立百周年おめでとうございます。

記念ミサ・祝賀会にあずかりながら、小教区共同体の信仰の中で、先人の苦勞の實りを自分も受け、召命を受けたことを感謝しました。この實りを自分のものとするだけでなく、種蒔く側としても神と共に働くよう思いを新たにしました。

下口神父様、葛島神父様のご指導のもと信徒の皆様が一致して下五島地区の中心教会としてその務めを果たされますようお祈りいたします。

○大野教会 中島 誠志師

『信仰を励まし合う背中』

すばらしい記念行事を有難うございました。祝賀会での手作りの歴史神父様方の紹介。中でも迫害の歴史を引きずる当時、信者たちが受け継いだ信仰を自信と誇りをもって生きられるようにと、中島万里神父様は町の運動会にスータン姿で出場し、信者たちたくさんのお支えの中、一番になられたエピソードは忘れられません。「私はあなたのために、信仰

が無くならないように祈った。

だから、あなたは立ち直ったら、兄弟を力づけてやりなさい。」主はペトロにこう言われました。万里神父様の姿をはじめ、記念ミサや祝賀会、新築された司祭館と信徒会館と信仰の歩みの石碑、そのための影の準備、そして集まった人々の背中に、子供や病人、困難にある人々の信仰を励まし合う心が見えて、これから自分に望まれていることの一つを百周年の節目に心に届けたように思いました。

○浅子教会 岩下 裕志師

『困難と希望』

百歳の福江小教区がもしも喋って「いやあ大変じゃったよ。しかし一つ困難を乗り越えれば一つ希望が見えてくるんじゃ。だからみんな頑張って繋いできたんじゃよ。ワシも支えられてここまでこれた。ありがたいのお」なんて言ってくれたら感動的です。

めでたい！で終わるにや余りにもったいないこの百年。次なる百年！いやいやとりあえず今見えている希望をみんなががっちり握って一緒に歩んで行きましようよ。

おめでとう！さあやってみよう!! 偉そうに言ってしまうのも百周年の恵みということで。神に感謝!

福江小教区百年のあゆみ

福江小教区の歴代主任司祭 (1)

小教区設立百周年祝賀会において上映されたスライドをもとに再編集したものです。今号より数回に分けて掲載します。



アルベール・ペルー師

福江小教区設立の恩人であるアルベール・ペルー師は、明治二十年、堂崎小教区第二代主任司祭として着任以来、司牧に専念すること三十年、その間に五島列島の司教総代理の重責をも果たした。信仰面で厳しい指導をしたが、信徒に対する慈悲のこころは厚く、信徒から「ペルーさま」と敬慕された。

井持浦、楠原、堂崎に煉瓦造りの



堂崎教会



伝道学校

教会堂を建設。マルマン師が大泊で始めた養育事業を発展させ、奥浦慈恵院と改名して恵まれない子供を引き取り養育した。大正三年には、奥浦に伝道学校を開設した。同年、郡長所在地の福江の中心地に教会敷地を購入。これが福江小教区設立となった。

教会堂を建設。マルマン師が大泊で始めた養育事業を発展させ、奥浦慈恵院と改名して恵まれない子供を引き取り養育した。大正三年には、奥浦に伝道学校を開設した。同年、郡長所在地の福江の中心地に教会敷地を購入。これが福江小教区設立となった。



旧福江教会



初代 脇田浅五郎師

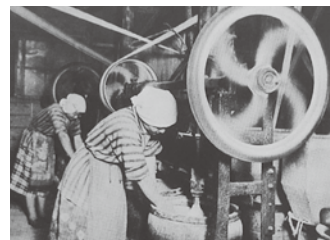
初代主任司祭の脇田浅五郎師は、久賀島で生まれクザン司教から司祭に叙階されると、ペルー師の指導の

もとに三井楽、井持浦、水の浦各小教区で主任司祭として活躍後、大正三年に福江小教区初代主任となり、翌年から浜脇小教区を兼務された。こうして司祭叙階後の九年間、下五島教会の司牧宣教に尽力された。その後、佐世保教会時代に県北念願の佐世保三浦町教会を建設、第二次大戦中にテグ教区の教区長、戦後には横浜教区の司教として活躍した。



第二代 出口一太郎師

第二代主任司祭の出口一太郎師は、黒島生まれ。大正三年コンバス司教によって司祭に叙階。大正七年に着任された。師はマルマン、ペルー師の意志を受け継ぎ、奥浦慈恵院の養育事業と奥浦伝道学校で伝道生の信仰育成に情熱を注いだ。そして



精米所



奥浦慈恵院

会員の中から医師、看護師の養成の計画を立て、その資金捻出のため福江教会の敷地内で精米業と産婆業を始めた。この医師養成はやがて十年後に実現し奥浦慈恵院診療所を開設。現在の聖マリア病院へと発展した。



第三代 田川伊勢松師

第三代主任司祭の田川伊勢松師は、浦上生まれ。コンバス司教によって司祭叙階。昭和六年、三二歳で赴任すると早速、堂崎教会の聖歌隊を組織し指導した。その後、奥浦青年会を設立。昭和九年には奥浦カトリック婦人会を設立。昭和一二、五月、福江、奥浦教会の信者一五〇人は田川師に引率され、玉之浦「ルドルの聖母」へ団体参詣した。



奥浦カトリック婦人会



第四代
中島万利師

第四代主任司祭の中島万利師は、長崎市伊王島生まれ。昭和一〇年ローマで司祭叙階。昭和一四年、二八歳で堂崎・福江小教区の主任として着任した。この頃はまだ、一般の信者に対して差別の余韻があったが、小学校の運動会で師が人さがしに当たり、スータンのまま走るお姿はとても早く、私達信者は一生懸命応援して、一番になり嬉しくて誇りに思ったというエピソードがある。師は婦人会、青年会の発展にも尽くされた。



第五代
浜田朝松師

第五代主任司祭の浜田朝松師は、小佐々町下神崎生まれ。昭和三年早坂司教によって司祭叙階。師は正義感が強く、水の浦小教区の主任司祭の時、水の浦聖ヨゼフ院の改革と現在の水の浦教会を建設。その後、昭和一六年堂崎兼福江教会主任として着任し、福江でも教会建設を計画していたが、翌年十一月に紐差教会に転任したので実現しなかった。主任

司祭として家庭訪問や病人訪問など誠実にその務めを果たされた。



第六代
今村悦夫師

第六代主任司祭の今村悦夫師は、田平町生まれ。昭和八年に司祭所階。昭和十七年堂崎兼福江教区主任として着任された。師は時折スータン姿で司祭館周辺の芝生の広場で往復を繰り返しながら聖務日課を唱えていたという。師は記憶力抜群で「歩く百科事典」というニックネームが付けられるほど物知りであり、特に歴史に詳しい事で定評があった。同師の明るくて庶民的で謙遜な人柄は皆から愛され慕われていた。



第七代
今村留市師

第七代主任司祭の今村留市師は長崎市生まれ。昭和一五年ローマで叙階。昭和一七年に浜脇教会主任となられたが、戦時中、司祭不足の中で浜脇小教区の司牧をしながら一年半あまり福江教会も兼務された。几帳面で信仰一徹な司祭だった。



第八代
古川重吉師

第八代主任司祭の古川重吉師は、外海町黒崎生まれ。昭和三年に司祭叙階。終戦後の昭和二年六月、福江教会主任として着任されたが、昭和二年一月わずか一年六ヶ月で中町教会へ転任された。師は一週間交代で福江と堂崎を往復しておられた。そのころはバスではなく、徒歩での巡回だった。二三年に及んだ中町教会では、長崎大司教区総代理として、山口大司教、里脇大司教の補佐役を果たされた。多趣味で晩年は囲碁など楽しんだが、一番の趣味は釣りだったという。



古川師 子供たちと



第九代
松下佐吉師

第九代主任司祭の松下佐吉師は外海町出津生まれ。大正一四年、ローマで司祭叙階。昭和二二年、戦後の混沌とした状況の中で堂崎、福江小教区主任司祭として着任した。師は信徒の信仰生活を高めるために、まず一般社会人としての教養を身につけさせ、生活水準と学歴を引き上げる事を辛抱強く指導されました。昭和三七年四月、白亜の美しい洋風の大きな現聖堂を完成させた。

師は二二年間福江教会にて司牧をされた。真福八端の道を司祭として日々生きることを生涯の理想として仰ぎ、その実現のため禅宗の教えを研究し、そこから「一・円・天」の思想を編み出し、その実現のために生涯にわたり祈りと修業に励まれ善き人間、善き社会人、善き信者になるよう自ら模範となつて信者を導かれた。



松下師 子供たちと

小教区百周年記念事業

第十七代主任司祭である下口勲神父様は着任後よりこれまでの間、さまざまな百周年記念事業の指揮をとってこられました。

◆百周年準備記念講演会開催

第一回「五島列島とそのキリシタン」第二回「キリシタン時代の宣教」第三回「キリシタン時代」第四回今井美沙子 松下佐吉神父の生き方

◆教会献堂五十周年

(平成二四年四月)

①信徒会館落成



② 福江教会献堂五十周年記念パンフレット「福江教会のあゆみ」、「島の信仰の輝き」出版

③ 教会の床の張替え工事。床は信徒の高歳化と高見大司教様の意向もあって、出入りが楽な土足履きに。

④ 音響工事。場所によっては説教が聴きにくいことを考慮して音響設備を一新した。

◆小教区設立百周年

(平成二六年四月)

①司祭館改築

② 福江小教区設立百周年記念コンサート

福江教会にて混声合唱団コールフロイデ、奥浦混声合唱団、コールアンジェラスの協力により開催。

③ 教会インテリアとアスファルト舗装工事

福江教会内部三八窓分の取り換え工事と信徒席(馬子)の改修。司祭館工事完工にあたり、教会前広場のアスファルト改修工事を行った。

④ 「信仰のあゆみ」の碑建立

⑤ 記念誌出版

「復活の使徒」

「浜脇教会の牧者たち」

「福江教会の牧者たち」第一巻、第二巻、第三巻出版

【新司祭館が完成】

新司祭館建設に於いては、平成二十一年六月より福江小教区にて建設委員会を立ち上げ、老朽化をしている司祭館の改築を小教区設立百周年記念事業として計画。平成二十五年九月に着工、平成二十六年四月七日に完成した。建設にあたり将来四人の神父様が住めるようにというこ



とで、長崎教区と会議・構想が進められ、構造は鉄骨二階建瓦葺き。総床面積は、四二・四四三平方メートル(一二四・七坪)地下駐車場には四台駐車可能となっている。

一階には司祭室一部屋・受付・事務室・調理室・食堂・応接室等。二階には司祭室三部屋・資料室等を配

置。玄関前には御ミサ後に起こる混雑の緩和などを目的に末広公園側へ出入口を増設した。設計…ライト建築設計、施工…岩下建設。



編集後記

今回は福江小教区設立百周年記念を特集に掲載しました、福江教会の歴史を学ぶことができたいでしょうか。

私たち信徒にとってこの百周年は、一生の内一回あるか無いかの記念すべき日に高見大司教様をはじめ下口主任神父様や、福江教会に関係ある神父様方と一緒に記念ミサにあずかる事が出来て大変光栄に思いました。

これから先福江教会が信仰を受け継ぎ、伝えて百五十年、二百年を迎えることができますようにお祈りいたします。